

第 4 次高知県食の安全・安心推進計画 安全確保のための取組

令和 5 年度 報告／令和 6 年度 計画

畜産振興課	1 ～ 2 ページ
水産政策課	3 ページ
水産業振興課	4 ～ 5 ページ
地産地消・外商課	6 ページ
県民生活課	7 ページ
農産物マーケティング戦略課	8 ～ 9 ページ
保健政策課	10 ページ
保健体育課	11 ページ
工業振興課	12 ページ
環境農業推進課	13～15 ページ
薬務衛生課、高知市保健所	16～19 ページ

令和 6 年 6 月 6 日

高 知 県

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(1)生産段階における安全・安心の確保

②安全・安心な畜産物の生産及び供給

(計画P.16)

- 動物用医薬品等の適正使用の指導
- 牛のトレーサビリティシステムの指導
- 家畜伝染病の発生予防対策

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
産業動物診療獣医師に対する指導率	計画	100%	100%	100%	100%	100%			
	実績	100% (12名)	100% (12名)	100% (12名)	100% (12名)				
畜産農家に対する飼料添加物等の適正使用の指導率	計画	100%	100%	100%	100%	100%			
	実績	100% (269戸)	100% (267戸)	100% (258戸)	100% (247戸)				
牛の飼養農家に対する耳標装着等の指導率	計画	100%	100%	100%	100%	100%			
	実績	100% (206戸)	100% (202戸)	100% (197戸)	100% (184戸)				
自衛防疫実績(ワクチン接種)	計画	牛:3,000頭 豚:85,000頭 鶏:1,200,000羽	牛:3,000頭 豚:85,000頭 鶏:1,200,000羽	牛:3,000頭 豚:85,000頭 鶏:1,200,000羽	牛:3,000頭 豚:85,000頭 鶏:1,200,000羽	牛:3,000頭 豚:85,000頭 鶏:1,200,000羽			
	実績	牛:5,700頭 豚:115,460頭 鶏:1,234,000羽	牛:8,506頭 豚:98,174頭 鶏:1,049,000羽	牛:5,706頭 豚:113,909頭 鶏:928,550羽	牛:6,686頭 豚:105,148頭 鶏:1,064,660羽				
高病原性鳥インフルエンザ監視(立入検査)	計画	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸			
	実績	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸	養鶏農家全戸				
高病原性鳥インフルエンザ監視(モニタリング)	計画	720羽以上	720羽以上	720羽以上	720羽以上	720羽以上			
	実績	830羽	970羽	970羽	970羽				

【令和5年度の実績】

- ①動物用医薬品や飼料添加剤の適正使用について、県内全ての産業動物獣医師及び生産者に対し、指導を行いました。
- ②牛トレーサビリティ法に基づく牛の耳標装着と出生・異動報告について、関係機関と協力しながら牛飼養農家全戸に対し、的確な届出が行われるように指導しました。
- ③自衛防疫(農家自らが行う防疫)については、ワクチン接種の推進とともに衛生的で健康的な家畜の飼い方を指導しました。
- ④養鶏農家への立入検査を全戸対象として実施し、農場段階における適切な飼養衛生管理基準の遵守について指導を行いました。また、高病原性鳥インフルエンザのモニタリング検査を970羽実施しました。検査結果はすべて陰性でした。

これらの結果、令和5年度においても、下記の状況を維持しています。

- ①動物用医薬品等の不適切な使用による残留等がなかったこと。
- ②牛トレーサビリティ法に基づく牛の耳標装着と出生・異動報告について、故意による不適切な届出などの事案がなかったこと。
- ③ワクチン接種の不徹底などによる伝染病の発生がなかったこと。
- ④高病原性鳥インフルエンザについて、県内の農場で発生がなかったこと。

【本年度の計画】

- ①動物用医薬品や飼料添加剤の適正使用について、県内全ての産業動物獣医師及び生産者に対し、指導を行います。
- ②牛トレーサビリティ法に基づく牛の耳標装着と出生・異動報告について、関係機関と協力しながら牛飼養農家全戸に対し、的確な届出が行われるように指導します。
- ③自衛防疫(農家自らが行う防疫)については、ワクチン接種の推進とともに衛生的で健康的な家畜の飼い方を指導します。
- ④令和5年度に引き続き、高病原性鳥インフルエンザ発生予防のため養鶏農家の立入検査(全戸)とモニタリング検査(6戸×12ヶ月×10羽=720羽)を行います。また、野生いのししにおける豚熱の発生が散見されており、引き続き養豚農家に対して県内での発生を予防する指導を実施します。

④生産出荷段階における農畜水産物の検査

(計画P.20)

【BSE検査】

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
死亡牛に対するBSE検査	計画	96か月齢以上の死亡牛全頭	96か月齢以上の死亡牛全頭	96か月齢以上の死亡牛全頭	96か月齢以上の死亡牛全頭	96か月齢以上の死亡牛全頭			
	実績	96か月齢以上の死亡牛全頭 (58頭)	96か月齢以上の死亡牛全頭 (59頭)	96か月齢以上の死亡牛全頭 (68頭)	96か月齢以上の死亡牛全頭 (56頭)				

【令和5年度の実績】

死亡牛については、BSE特別措置法でBSE検査を受けることが義務付けられています。平成31(令和元)年度から死亡牛の検査対象となる月齢が96ヶ月以上に引き上げられ、対象となる死亡牛の全頭検査を行いました。

【本年度の計画】

死亡牛については、BSE特別措置法でBSE検査を受けることが義務付けられています。当初計画通り、死亡牛の全頭検査を行います。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(1)危機管理体制の強化

(計画P.35)

○連携した危機管理体制による迅速な対応

【令和5年度の実績】

県内での高病原性鳥インフルエンザ発生に備え、防疫作業動員計画表を更新しました。また、迅速な防疫作業が行えるよう、10月24、25日に高病原性鳥インフルエンザ対策訓練として、県庁職員で発生に備えた情報伝達訓練、動員参集、健康チェック、防疫作業を実施しました。

【本年度の計画】

県内での高病原性鳥インフルエンザ発生に備え、防疫作業動員計画表を更新します。また、迅速な防疫作業が行えるよう、防疫演習の実施により作業工程を確認し関係機関との連携を図ります。

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(1)生産段階における安全・安心の確保

③安全・安心な水産物の生産及び供給

(計画P.17)

【水産物産地市場の衛生確保】

- 水産物産地市場の衛生確保

【令和5年度の実績】

○衛生管理についての意識向上

・9/5、清水市場において、清水新市場運営検討委員会が開催され、市場関係者約20名が参加。衛生管理型市場の更新に向け、市場の使用状況や衛生管理の取組状況を確認した。

・9/26、海洋水産システム協会および全漁連食品品質管理室を講師として、リモートで産地市場関係者のためのHACCP関連講習会が実施された(高知県後援)。

・11/21から11/22にかけて清水市場で、大日本水産会の衛生管理型市場の認定更新のための現地審査会が行われた。要綱で定められた書類作成などの対応について指摘があったものの、衛生管理型市場の運営は概ね適正に行われているとの評価であり、令和8年度までの認定更新が決定

・令和6年度は高知県漁協の室戸岬市場及びすくも湾漁協の田ノ浦市場が大日本水産会の衛生管理認定市場の3年に1度の更新年度であり、前回更新時の指摘事項も踏まえ、認定に必要な衛生管理についての現地指導を行う。

・各地で老朽化する市場の整備を見据え、他県の衛生管理型市場の先進地を視察し、その整備や衛生管理方法について情報収集し、本県の実態に合う最適な市場整備とその運用のあり方について検討する。

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(1) 生産段階における安全・安心の確保

③ 安全・安心な水産物の生産及び供給 (計画P.18)

【動物用医薬品(水産用医薬品)の適正使用の指導】

【令和5年度の実績】

魚類養殖経営体193のうち、127(65.8%)の経営体に指導会議、巡回指導、魚病診断等の方法により養殖衛生管理指導を実施。

医薬品の適正使用に関する調査指導を実施。

ワクチン接種に関する技術講習会を開催。

医薬品の残留検査を実施。

【今後の取組】

医薬品の適正使用に関する調査・指導及び医薬品の残留検査の実施を予定。

指導会議、巡回指導、魚病診断等による養殖衛生管理指導の実施を予定。

④ 生産出荷段階における農畜水産物の検査 (計画P.20)

【貝毒対策】

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
貝毒発生モニタリング検査	計画	継続実施	継続実施	→				継続実施	
	実績	貝毒検査: 延べ29回 プランクトン調査: 延べ152回	貝毒検査: 延べ22回 プランクトン調査: 延べ152回	貝毒検査: 延べ26回 プランクトン調査: 延べ169回	貝毒検査: 延べ26回 プランクトン調査: 延べ141回				

【令和5年度の実績】

4月から野見湾、浦ノ内湾、あしずり港及び宿毛湾にて貝毒プランクトンの調査及びサンプリングした二枚貝の麻痺性貝毒及び下痢性貝毒の検査を実施し、貝毒の発生監視を行いました。

令和6年2月2日、野見湾でサンプリングした二枚貝の麻痺性貝毒の検査を実施し、国の規制値を超える麻痺性貝毒が検出されたことから、同日付で同海域の二枚貝類を対象に採捕及び出荷自粛措置を講じました。

令和6年3月18日、野見湾の麻痺性貝毒が3週連続で規制値を下回ったことが確認され、同日付で採捕及び出荷自粛措置を解除しました。

【今後の取組】

県内の海域において貝毒プランクトンの発生状況の監視及び貝毒検査とその結果の周知を継続します。

また、貝毒発生時にはマスメディアやホームページ等を通じて、採捕自粛等の要請を迅速に行います。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(5) 関係機関や関係団体との連携及び協働 (計画P.42)

【令和5年度の実績】

県内の海域において貝毒プランクトンの発生状況等について漁業協同組合と情報共有を図りました。

【今後の取組】

県内で貝毒が発生した際には、国等の関係機関及び発生海域周辺自治体並びに漁業協同組合との情報共有を図り、健康被害の発生防止に努めてまいります。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(3) 食の安全・安心に取り組む農林水産業のPR及び支援 (計画P.40)

【水産物】

○ 水産物の鮮度保持技術の普及

【令和5年度の実績】

(室戸地区)

・管内の大型定置網経営体が販売促進しているブランドブリの切身ブロックを2～3日後に刺身で提供する手法を検討するため、真空パック時にブロックを包むシートを比較する試験を3回実施した。試験評価のための食味試験は漁業者とともに行うことで、結果を共有した。漁業者は本試験において好結果であった方法を刺身を提供するイベント出展で採用し、1～2日間保管した刺身を約1,400食提供したところ、好評価であった。

(中央地区)

・久礼市場の拭き取り検査(ルミテスター検査)を実施(4回)
 ・令和4年度から計画しているシイラの鮮度管理試験に関しては、令和5年度もシイラの不漁のため実施できず、令和6年度に延期とした。
 ・別地区のキハダマグロ釣り漁業者から鮮度管理試験について問い合わせがあり、令和6年度の試験実施に向けて試験計画を作成した。

(土佐清水地区)

・管内のシビ(キハダマグロ)縄漁業者を対象に、キハダマグロ取扱マニュアルの配布普及を行った。
 ・管内のシビ縄漁業者を対象とした船の魚倉内水温の測定などにより各船のキハダマグロの鮮度管理状況を調査した。(1回)
 ・加工用原魚として扱われるメジカの生食普及による魚価向上に向け、令和4年度に下ノ加江地区のメジカ曳縄漁業者が漁獲したメジカを、船上において血抜きなど数種類の鮮度処理方法でサンプリングし、凍結して長期保管したもの(約1年間)の食味試験を実施した。その結果、鮮度処理方法による違い感じられなかったが、保存温度が-20℃であったものは、-40℃であったものより食味が悪くなる傾向が見られた。
 ・工業技術センターが試作した、メジカの生食商品「漬け丼のもと」を試食した。

(宿毛地区)

・すくも湾中央市場の拭き取り検査(ルミテスター検査)を実施(12回)
 ・管内関係者からの要請により、田ノ浦漁港にあるブリメ場において、当所職員が交代で純酸素通気による身割れ対策を行った(7月に14回、8月に26回の計40回実施)。

【今後の取組】

(室戸地区)

・定置網漁業や釣り漁業を中心に漁獲物の鮮度向上に向けた取組を支援する。

(中央地区)

・久礼市場において拭き取り検査(ルミテスター検査)を実施する。
 ・計画しているシイラ及びキハダマグロの鮮度管理試験を実施する。

(土佐清水地区)

・キハダマグロの鮮度管理の状況調査及び神経締めなどの鮮度管理技術の普及を図る。
 ・定置網漁業及び釣り漁業者の鮮度向上の取組を支援する。
 ・加工用原魚として扱われるメジカの生食普及による魚価向上に向け、メジカ曳縄漁業者が漁獲したメジカを複数の鮮度処理方法ごとにサンプリングし、鮮度評価試験(K値やヒスタミンの測定)や食味試験を実施する。

(宿毛地区)

・すくも湾中央市場における拭き取り検査(ルミテスター検査)を実施する。
 ・漁業者に対する純酸素通気による身質向上技術の普及を図る。
 ・養殖ブリのフィレ加工時に生じる「身割れ」等の肉質劣化について、養殖業関係者を対象とした情報交換会を実施する。

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(5) 認証制度の推進 (計画P.29)

【加工食品及び食品関連施設】

○高知県版HACCP認証制度の推進

【令和5年度の実績】

- ・HACCP研修(対面及びオンライン)
3回実施し、計29社が受講
- ・一般衛生管理研修(オンライン)
1回実施し、計31社が受講
- ・食品安全マネジメント研修(オンライン)
1回実施し、計19社が受講
- ・HACCPアドバイザー
31社が活用

【今後の取組】

- ・県版HACCPの認証取得を引き続き支援(9月末)
- ・県版HACCP認証取得事業者のHACCP手法の定着を支援
- ・研修のオンデマンド配信による、事業者ごとのレベルに合わせたHACCP手法の習得や一般衛生管理・実行を支援

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(3) 消費段階における安全・安心の確保 (計画P.26)

○ 外食等の持ち帰りに関する注意事項等の普及啓発

【令和5年度の実績】

- ① 当課ホームページにおいての外食時の食べきり及び「持ち帰り」に当たっての注意事項(消費者向け、事業者向け)等の周知を行った。
- ② 当課ホームページにおいて食品ロス削減啓発のためにキャンペーンの実施や食品ロス削減の工夫事例を紹介・周知を行った。

【本年度の計画】

当課ホームページにおいて、外食時の食べきり啓発及び「持ち帰り」にあたっての注意事項(消費者向け、事業者向け)を紹介するほか、食品ロス削減啓発ガイドブックを活用した普及啓発を実施。

2 食品に関する正確な情報の提供

(1) 適正な食品表示の確保

- ① 関係法令に基づく食品表示の監視指導 (計画P.31)
- ② 食品表示に関する普及啓発 (計画P.33)

【令和5年度の実績】

- ① 県民からの情報提供や関係機関から情報回付があったものについて、景品表示法に基づいて事実関係の調査等を行い、必要に応じて指導等を実施した。
- ② R5.9.9～9.15に高知県立大学と連携して実施した「消費生活オンライン講座」において、景品表示法に関する講座(9/10 景品表示法～事例に学ぶ～)を行い、消費者に表示への理解促進を図った。

【本年度の計画】

県民からの情報提供や関係機関から情報回付があったものについて、景品表示法に基づいて事実関係の調査等を行い、必要に応じて指導等を実施。
高知県立大学と連携した「消費生活オンライン講座」などを通じて、消費者の表示への理解を促進する。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(5) 関係機関や関係団体との連携及び協働 (計画P.42)

【令和5年度の実績】

景品表示法四国ブロック会議(R5.4.27、R5.11.7)に出席し、景品表示法の違反事例に対する調査や指導の方法等に関する研修及び関係機関との情報交換を実施した。

【本年度の計画】

昨年度と同様に、景品表示法四国ブロック会議に出席するほか、適時に関係機関との情報交換・連携を図ることにより、適性表示の徹底に取り組む。

2 食品に関する正確な情報の提供

(1) 適正な食品表示の確保

① 食品表示の監視指導

(計画P.31～32)

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品表示監視指導回数	計画	12回 (合同のみ)	15回 (合同のみ)	30回	30回	30回	30回	30回	※食品表示法(品質事項に関すること)担当課分について計上 ※R3までは合同監視の回数を数値目標としていた
	実績	11回 (合同) 20回 (単独)	9回 (合同) 32回 (単独)	30回	30回				
食品表示ウォッチャーの数	計画	20名	20名	20名	20名	20名	20名	20名	
	実績	19名	20名	20名	20名				

【令和5年度の実績】

〈食品表示監視指導〉

・直販所等を対象とした監視指導を30回(件)実施

〈食品表示ウォッチャー〉

・食品表示ウォッチャー20名による表示に関するモニタリング及び報告を実施

【今後の取組】

〈食品表示監視指導〉

・製造・販売事業者等に対する食品表示の点検や監視指導を30回実施

〈食品表示ウォッチャー〉

・食品表示ウォッチャー20名による表示に関するモニタリング及び報告を実施

② 食品表示に関する普及啓発

(計画P.33)

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
直販所や食品関連事業者を対象とした関係部局による食品表示研修会(回数)	計画	5回	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	※食品表示法(品質事項に関すること)担当課分について計上
	実績	6回	4回	6回	5回				

【令和5年度の実績】

〔県主催〕

・7月 「農産物直販所『安心係』養成講習会」で食品表示の講義を実施(3ヶ所のべ3回)

・8月 食品関連事業者等を対象とした「高知県食品表示セミナー」を開催(1ヶ所のべ1回)

※集合開催と併せたオンライン配信実施

〔他機関主催〕

・6月 「国内産農産物検査員育成研修会」で食品表示の講義を実施(1ヶ所のべ1回)

【本年度の計画】

・7月に開催される『農産物直販所「安心係」養成講習会』(4ヶ所のべ4回)において、食品表示の講義を実施する。なお、本年度は2ヶ所以上の会場で、集合型とオンラインのハイブリッド形式で開催予定。

・食品関連事業者等を対象とした「高知県食品表示セミナー」を2回開催する。なお、本年度は、集合型とオンラインのハイブリッド形式で開催予定。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(2) 食育の推進 (計画P.36～38)

【地産地消】

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
土佐の料理传承人 (組織及び個人)による郷土料理伝承講座	計画	3回/年								
	実績	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年	3回/年				

【令和5年度の実績】

- ・「土佐の料理传承人」による郷土料理伝承講座の開催
対象:小中学校 栄養教諭、高等学校 家庭科教諭
8月30日(佐川町 参加者9名)、1月30日(南国市 参加者6名)、2月10日(高知市 参加者15名)

【本年度の計画】

- ・「土佐の料理传承人」による郷土料理伝承講座の開催 6回

(3) 食の安全・安心に取り組む農林水産物のPR及び支援

(計画P.39～40)

【農産物】

- 環境保全型農業に取り組む園芸高知のPR、県産農産物のブランド力向上と販路拡大
- 直販所の安全・安心の徹底

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
県内における農林水産物直販所への「安心係」配置割合	計画	95%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	実績	85%	88%	84%	88%					

【令和5年度の実績】

- ・直販所142店舗中125店舗に安心係配置(令和6年3月末)
- ・食品表示、農薬の適正使用、衛生管理などの観点から、各直販所における安全・安心対策を推進するための『農林水産物直販所「安心係」養成講習会』を、県内3か所のべ3回(高知市、須崎市、四万十市)実施(計137名参加)
未設置店舗については須崎市講習会の録画動画の視聴を案内し、視聴を行った直販所職員については安心係の取得となった。また、録画動画視聴に至らなかった店舗についても個別訪問を行い、令和6年度講習会参加について呼びかけを行った。

【本年度の計画】

- ・食品表示、農薬の適正使用、衛生管理などの観点から、各直販所における安全・安心対策を推進するための『農林水産物直販所「安心係」養成講習会』を、県内4か所のべ4回(高知市、須崎市、四万十市、安芸市)実施予定。本年度はZOOMを活用したウェビナー形式との併用を2か所以上の会場で実施し、安心係設置件数の増加を目指す方針。

「安全で安心な県産園芸品のPR」

【令和5年度の実績】

- ・県内ショッピングモールでの天敵の展示や生産者による環境保全型農業の取組紹介によるPR
- ・県外量販店バイヤー等の産地視察における天敵観察などを通じた環境保全型農業の紹介

【本年度の計画】

- ・量販店バイヤー等による産地視察時及び一般消費者向けイベントでの環境保全型農業の紹介
- ・環境保全型農業に係る広報資材等を活用した販促活動でのPR

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(2) 食育の推進 (計画P.36～38)

【食生活】

○学校、保育所・幼稚園、地域等ごとに連携して行う食育の促進

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食育に関心を持っている県民の割合	計画				→ 全国平均 値以上(*)				
	実績		→	58.9%				→	
		(H28:54%)							

* 第4期食育推進計画(令和6年度～11年度)における目標値

全国平均値79.6%(令和4年度)

【令和5年度の実績】

・地域食育推進事業

食育講座:34市町村112回実施(公立小学校48.4%の実施)

うち重点取組校9校においてアンケート調査を行い、事業効果の分析

食育イベント:34市町村49回 4,157人に啓発

食育に係る研修会:8/7 102名

・低栄養予防レシピの普及啓発

県食生活改善推進協議会研修会にて、低栄養予防レシピの啓発(8/7 102名)

シニアカフェ事業時に普及啓発(19市町村310人)

【本年度の計画】

・地域食育推進事業

食育講座:34市町村100回予定

重点取組校10校における実施を予定

食育イベント:34市町村で啓発

生活習慣病予防及びフレイル予防等世代に応じた啓発を予定

(5) 関係機関や関係団体との連携及び協働 (計画P.42)

【令和5年度の実績】

・第3期高知県食育推進計画の評価と次期計画の策定・・・食育連携推進協議会開催(7/5、11/22、1/19)

・第4期高知県食育推進計画の公表(3月)

・高知家の早寝早起き朝ごはんフォーラム2023(12/6)にて、食育に関する普及啓発

ベジチェックを使用した野菜摂取啓発と朝食の大切さの普及(120名程)

【本年度の取組】

・食育連携推進協議会開催(年2回予定)

・食育の取組(予定)把握と実績報告依頼

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(2) 食育の推進 (計画P.36～38)

【食生活】

○学校、保育所・幼稚園、地域等ごとに連携して行う食育の促進

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
朝食を必ず食べる児童生徒の割合(全国平均以上)	計画	【全国平均】 - (未実施)	【全国平均】 男子、女子 小82%、81% 中81%、76% 高85%以上	【全国平均】 男子、女子 小82%、81% 中80%、73% 高85%以上	【全国平均】 男子、女子 小81%、79% 中80%、73% 高85%以上	小学生・中学生 全国平均以上 高校生80%以上	小学生・中学生 全国平均以上 高校生80%以上	小学生・中学生 全国平均以上 高校生80%以上	
	実績	男子、女子 小87%、86% 中81%、78% 高74%、78%	男子、女子 小80%、80% 中77%、72% 高76%、79%	男子、女子 小82%、80% 中78%、72% 高75%、76%	男子、女子 小80%、78% 中79%、71% 高73%、69%				
学校給食における地場産物の活用(金額ベース)	計画	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	現状値(R1年度 54.1%)から維持・向上	
	実績	-	57.8%	53.7%	58.6%				

【令和5年度の実績】

＜朝食摂取＞

- 子どもたちが食物の品質及び安全性について自ら判断し選択できる能力や望ましい食習慣を身につけることができるよう、食に関する指導を継続して実施中(家庭科、特別活動など)
- 望ましい生活習慣の基礎となる朝食摂取を推進し、実践力の育成を図るための食育推進支援事業の実施
 - ・ボランティアによる食事提供活動の実施(2団体、3校)
 - ・高知県学校栄養士会への委託(朝食アンケートの分析、ICTを活用した指導教材を用いた授業の実施)
 - ・食育推進指定校における食に関する指導実践(3校)

＜地場産物の活用＞

- 地場産物活用率向上に向けた取組
 - ・地場産物を多く取り入れるための献立提供の実施
高知の食べものいっぱい入っちゃう日
カレーの日、おだしの日(和食の日)
地場産物の活用状況調査(6、11月)
- 各種取組への支援(学校給食甲子園、食育月間、食育の日、学校給食週間など)

【本年度の取組】

＜朝食摂取＞

- 食育推進事業の実施
 - ・食育推進重点校における朝食摂取を中心とした実践事例を周知
- 朝食摂取率に課題のある学校への訪問及び指導助言
- ・ICTを活用した指導教材を用いた指導の実施

＜地場産物の活用＞

- 地場産物を多く取り入れるための献立提供の実施に関する取組 (高知の食べものいっぱい入っちゃう日、カレーの日、おだしの日(和食の日)、地場産物の活用状況調査(6、11月))
- 各種取組について周知(学校給食甲子園、食育月間、食育の日、学校給食週間など)
- 学校給食での有機農産物活用に関する検討

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(3)食の安全・安心に取り組む農林水産業のPR及び支援 (計画P.39～40)

【農産物】【水産物】

【令和5年度の実績(令和6年3月末まで)】

食品開発課職員による技術指導件数1046件
食品加工特別技術支援員による技術指導件数72件
技術研修参加者数延べ197名

【本年度の計画】

県産一次産品を利用した商品に関して、職員及び食品加工特別技術支援員が食品企業の巡回及び指導など、技術的な側面からのサポートを行い、農林水産物の需要拡大と販路拡大に向けた取り組みを支援する。

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(1) 生産段階における安全・安心の確保

①安全・安心な農産物(林産物を含む)の生産及び供給 (計画P.14～15)

【農薬の適正使用指導】

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
農薬取締法違反による出荷の自粛	計画	0件	0件	0件	0件	0件	0件	0件	
	実績	0件	0件	1件	3件				
防除履歴の記帳率 (農協生産部会に属する野菜農家)	計画	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	実績	92%	97.6%	集計中	R6年度調査				
マイナー作物の農薬登録データの作成	計画	3件/年	3件/年	5件/年	5件/年	5件/年	5件/年	5件/年	
	実績	6件/年	3件/年	5件/年	4件/年				

【令和5年度の実績】

- ・7月7、10、11日に農薬危害防止啓発巡回指導を実施。県内28店舗。
- ・6月27、30日に県内2会場(高知市、四万十市)で農薬安全使用講習会を開催。
- ・7月20日に病虫害防除に関する意見交換会を開催。
- ・農薬の適正な使用等について、関係機関に対し文書による注意喚起と指導徹底を依頼(4回)。
- ・マイナー作物に対する農薬適用拡大試験(4件)を実施。

【本年度の計画】

- ・6月下旬～7月中旬に農薬危害防止啓発巡回指導を実施予定。
- ・7月10日、16日に農薬安全使用講習会を開催予定(県内2会場;高知市、四万十市)
- ・7月22日に病虫害防除に係る研修会を開催予定(高知市)。
- ・マイナー作物に対する農薬適用拡大試験を実施予定(5件)。

【環境保全型農業の推進】

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
県版GAP以上の実践農家数(品目別累計)	計画	712	988	1,129	1,636	国の指針にともない高知県版GAPの廃止 →国際水準GAP等への対応			～R5 第4期産振
	実績	902	1,033	1,510	2,266				
病害版IPM技術の新規導入技術数(累計)	計画	—	4	5	7				～R5 第4期産振
	実績	—	2	2	3				
↓ 病害版IPM技術の普及率(%)	計画	—	39	44	49	53	58	63	新 R6 ～ ※高知県基本計画
	実績	34	36	41	45				

※農林魚業における環境負荷低減事業活動の促進に関する高知県基本計画(R5年2月)におけるIPM技術による防除 面積率(%)

【令和5年度の実績】

「GAP」

- ・高知県立農業高校JGAP審査の公開(8月、1回)
- ・農業担い手育成センターJGAP審査の公開(12月、1回)
- ・農業大学校GGAP審査の公開(2月、1回)
- ・幡多農業高校JGAP審査の公開(2月、1回)
- ・県版GAP第三者確認調査の実施(11月)
- ・JGAP団体認証研修の受講(2名)

「IPM」

- ・キュウリ、ナス常温煙霧機の導入
- ・ニラ湿度制御技術の導入

【本年度の計画】

「GAP」

- ・国の指針にともない高知県版GAPの廃止→国際水準GAP等への対応
- ・教育機関における認証版GAP審査の公開(各1回)
(高知農業高校、幡多農業高校、農業大学校、農業担い手育成センター)
- ・JGAP団体認証研修(2名)
- ・JGAP指導員基礎研修(5名)
- ・GAPセミナー等(1回)

「IPM」

- ・イオウくん蒸器、湿度制御等の普及拡大
- ・R9弱毒ウイルス実用化(予定)、IoT技術活用発生予察利用防除技術の実証継続
- ・シンナムアルデヒドの普及
- ・常温煙霧農薬登録促進

(5) 認証制度の推進 (計画P.27～28)

【農産物及び生産者の取組】

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
有機JAS認定事業者における有機農業の取組面積及び環境保全型農業直接支援対策で支援の対象となる有機農業の取組延面積	計画	284ha	284ha	408ha ^z 146ha ^y	408ha ^z 160ha ^y	179ha ^y	207ha ^y	237ha ^y	
	実績	134ha	144ha	146ha	調査中				

z 高知県有機農業推進基本計画(R3.4改定)における令和12年目標値

y R4以降は、第5期産業振興計画の作成に用いた現状値と目標値

【令和5年度の実績】

- ・有機農業推進協議会の開催(7月・9月・10月・2月、4回)
- ・有機農業指導員の育成(5名)
- ・有機農業研修会(11月)
- ・環境保全型農業直接支払交付金(16市町村)
- ・有機農業の推進に係る調査(11月)
- ・オーガニックフェスタの開催支援(6～12月)

【本年度の計画】

- ・有機農業推進協議会設立(5月)
- ・有機農業現地実証ほの設置(11か所)
- ・有機農業指導員の育成(20名)(国事業申請中)
- ・有機農業研修会(1回)
- ・環境保全型農業直接支払交付金(16市町村)
- ・オーガニックフェスタの開催支援(6～12月)

(6) 調査研究の推進 (計画P.30)

○安全・安心な農林水産物の生産・加工等に関する研究

【令和5年度の実績】

- ・化学農薬に頼りすぎない農業生産の実現に向けて、野菜の重要害虫であるアザミウマ類やコナカイガラムシ類の早期発見技術の開発や土着天敵利用のための調査に取り組んだ。
- ・茶の有機栽培のための技術開発を開始し、有機質肥料及び有機JAS認証栽培で使用可能な農薬の効果を検証するとともに、硬くなったうね間の耕起に適した刈り払い機に装着できる軽量なアタッチメントを開発した。
- ・施設栽培ピーマンにおいて有機JASに適合する薬剤や資材による病虫害防除及び施肥に関する予備試験を実施した。

【本年度の計画】

- ・茶の栽培における有機質肥料の施肥体系及び省力的施肥方法や、耕種的病害防除法を検討する。
- ・施設栽培ピーマンにおいて有機JASに適合する薬剤や資材による病虫害防除効果を明らかにする。また、収量を確保するための有機質肥料の種類と施肥方法を明らかにする。

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(5) 関係機関や関係団体との連携及び協働 (計画P.42)

【令和5年度の実績】

- ・食の安全、安心に係る各種団体と連携し、協力して取り組みを推進した。

【本年度の計画】

- ・食の安全、安心に係る各種団体との連携と協働を継続する。

1 生産から消費に至る食の安全・安心の確保

(2) 製造・加工・販売段階における安全・安心の確保

① 「HACCPに沿った衛生管理」の導入・定着の推進 (計画P.22)

【令和5年度の実績】
・食品衛生監視指導時における実施状況の確認及び指導 ・食品等事業者を対象とした講習会における周知、計画作成補助
【本年度の計画】
・県域保健所における講習会の回数を増加 ・11月に国および日本食品衛生協会と講習会を開催予定

② 食品営業者及び製造施設等に対する監視指導 (計画P.23)

○ 「食品衛生監視指導計画」による監視指導

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品衛生監視指導計画の監視指導達成率	計画	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	実績	94%	-	71%	89%				

【令和5年度の実績】
・年度ごとに策定する「食品衛生監視指導計画」に基づき、施設に立ち入り、監視指導を実施
* 「許可を要する施設」について計上
・監視すべき施設数：6063施設（県4785施設、市1278施設）
・監視施設数：5374施設（県3337施設、市2037施設）
【本年度の計画】
・食品衛生監視指導計画に基づき監視指導を実施する。

③ 食中毒予防 (計画P.24)

年度		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品等事業者を対象とした食品衛生に関する講習回数	計画	300回以上	※薬務衛生課及び高知市分のみ						
	実績	※324回	※301回	262回	315回				
消費者を対象とした食品衛生に関する講習回数	計画	90回以上							
	実績	24回	21回	21回	66回				
食中毒発生件数(*)	計画	→	減少させる	→			→	減少させる	* 食中毒は年次統計
	実績	9件/年	11件/年	9件	14件				

【令和5年度の実績】
・食中毒発生件数(令和5年)：14件 高知県…6件(カンピロバクター・ジェジュニ2件、ノロウイルスG I、アニサキス、不明2件) 高知市…8件(カンピロバクター・ジェジュニ5件、アニサキス2件、ノロウイルス)
【本年度の計画】
・衛生講習の開催案内を広く行い、食中毒予防の普及啓発を実施 ・特にカンピロバクター食中毒予防を重点的に行う(チラシの配布や広報誌への掲載)

④流通食品の検査 (計画P.25)

○流通食品に対する検査の実施

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品衛生監視指導 計画に基づく食品の 検査率	計画		100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	
	実績		81%	77%	89%	109%				

【令和5年度の実績】

- ・高知県 111% (検査数 1,205検体/計画数 1,090検体)
- ・高知市保健所 103% (検査数 1,503検体/計画数 1,380検体)

【本年度の計画】

- ・「食品衛生監視指導計画」に基づき食品の検査を実施する

(3)消費段階における安全・安心の確保 (計画P.26)

○県民向けの食中毒予防等の普及啓発

【令和5年度の実績】

- ・食品衛生月間の啓発
- ・ホームページ、SNSでの啓発(ノロウイルスによる食中毒/カンピロバクターに注意 等)

【本年度の計画】

- ・食中毒が発生しやすい時期等、機会を捉えた啓発を実施する
- ・より有効な普及啓発のため、内容や手段を検討する

(4)県民からの相談等による立入調査等 (計画P.26)

○県民からの危害情報等の影響に対する立入調査など適切な措置の実施

【令和5年度の実績】

- ・食品苦情(食中毒の疑い情報を含む)を探知次第、迅速な調査
- ・不適切な取扱いの事業者があれば指導するとともに、情報提供者に調査結果を報告

【本年度の計画】

- ・県民からの相談等に真摯に対応し、必要に応じて立入調査・指導等を行う

(5)認証制度の推進 (計画P.29)

【加工食品及び食品関連施設】

○高知県版HACCP認証制度の推進

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
高知県食品総合衛 生管理認証施設数	計画		→	(旧)第2 ステージ以上 320施設	→	第2ステージ 以上 200施設	継続支援			
	実績		218社 240施設 (277業種)	238社 260施設 (293業種)	93社 100施設 (114業種)	97社 105施設 (127業種)				

【令和5年度の実績】

- ・認証施設数
第3ステージ:20社23施設34業種
第2ステージ:40社40施設42業種
旧基準第3ステージ(現第2ステージ相当):37社42施設51業種

【本年度の計画】

- ・高知県版HACCP認証制度の見直し
令和6年3月末で新規・更新申請の受付終了
認証期限は令和11年3月末(最長)まであり、それまで変更や証明の手続きは継続

2 食品に関する正確な情報の提供

(1) 適正な食品表示の確保

① 食品表示の監視指導

(計画P.31～32)

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品表示監視指導回数	計画	-	-	24回	24回	24回	24回	24回	24回	※薬務衛生課及び高知市分のみ
	実績	-	-	25回	25回					

【令和5年度の実績】

- ・各保健所4回以上を目標に実施
- ・監視施設: 直販所、菓子製造販売店、街路市 等
- ・その他、関係機関からの情報提供や県民からの相談等に基づく調査・指導を実施

【本年度の計画】

- ・継続して監視指導を実施(本年度も各保健所4回以上を目標にしている)
- ・違反や指導の事例が多い事項を分析し、普及啓発や講習会で重点的に指導する
(多い事例としては、アレルギー・添加物・期限表示に関する内容)

② 食品表示に関する普及啓発

(計画P.33)

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
食品関連事業者を対象とした食品表示に関する講習(回数)	計画	330回以上	330回以上	150回以上	150回以上	150回以上	150回以上	150回以上	150回以上	※薬務衛生課及び高知市分のみ
	実績	120回	118回	140回	189回					
消費者を対象とした食品表示に関する講習(回数)	計画	20回以上	20回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	10回以上	※薬務衛生課及び高知市分のみ
	実績	5回	13回	14回	17回					

【令和5年度の実績】

- ・食品関連事業者向け: 許可証交付講習会等において講習を実施
講習会のほか、個別相談事案への対応
- ・消費者向け: 地域団体に対する講習会、学生に対する講習会等の実施

【本年度の計画】

- ・上記の取組を引き続き実施する
- ・食品表示相談申込の周知、対応

(2) 食品等のリコール情報の届出制度の周知及び運用 (計画P.34)

【令和5年度の実績】

- ・自主回収について届出された場合には迅速な手続により早期に消費者に公表した

【本年度の計画】

- ・引き続き自主回収事案の迅速な公表に努め、食の安全・安心に繋げる
- ・事業者及び消費者に対する講習会等の機会に、報告制度の周知を行う

(3) 食品の安全性に関する情報の収集及び提供 (計画P.34)

○食の安全・安心に関する情報の迅速で分かりやすい提供

<p>【令和5年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期と年末を中心に積極的な広報を実施(ホームページ、SNS) ・食の安全・安心リスクコミュニケーションの実施
<p>【本年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報:年間を通じて実施 ・食の安全・安心リスクコミュニケーションの実施

3 食の安全・安心を確保するための相互理解と信頼関係の確立

(4) 行政、食品関連事業者、消費者間の情報及び意見の交換、相互理解 (計画P.41)

○相互理解及び食品に関する認識を深めるための意見交換会(リスクコミュニケーション)実施

		年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	備考
意見交換会(リスクコミュニケーション)の開催	計画	10回以上	10回以上	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	5回以上	
	実績	8回	9回	6回	7回					

<p>【令和5年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各保健所ごとに意見交換会(リスクコミュニケーション)の開催 テーマ:肉の生食のリスクや手洗いについて、食品表示 等
<p>【本年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各保健所ごとに意見交換会を開催 ・薬務衛生課と高知市保健所合同の意見交換会を開催予定(11月で調整中) ・各意見交換会のアンケートの分析を行う

(5) 関係機関や関係団体との連携及び協働 (計画P.42)

<p>【令和5年度の実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・(一社)高知県食品衛生協会と連携し、食品衛生指導員研修会を実施
<p>【本年度の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き(一社)高知県食品衛生協会とも連携し、HACCPに沿った衛生管理の普及に努める ・食品に関する事故や食品表示に関する事案について、必要に応じ関係機関と情報共有や連携による対応を行う